

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスgreenbottlehouse		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 23日		R8年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	R8年 3月 9日		R8年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の質及び専門性の高さ	職員自身の専門性を高められるよう、スーパーバイザーによる研修を継続的に行なっています。 また本年度より、外部講師を新たに迎え、より広い視点から事業所の環境や療育内容に対して助言をいただける環境を整えました。	職員の専門性向上を目的としたスーパーバイザーによる研修を継続するとともに、外部コンサルタントからの助言を活かし、支援の質の向上に取り組んでいきます。
2	保護者との情報共有や信頼関係	日々の連絡帳や送迎時の対面でのやり取りを通して、お子様の成長や課題点をリアルタイムで共有するよう努めています。	課題点を支援内容に迅速に汎化することは、保護者様からの信頼にも繋がると考えています。課題を踏まえ実践し、結果どうだったのか、一連の細やかな情報共有を今後も欠かさず続けてまいります。
3	利用児童の安心感と満足度の高さ	職員一人一人が、それぞれの児童の特性を理解し接することでお子様も保護者様も安心して利用していただけていると感じます。支援方法も職員間でバラつきなく統一していますが、そのことが子どもたちの安心材料にもなっていると考えます。	今後も事例検討を行ない、統一した支援方法を共有することは今後も続けていきます。 また、児童一人一人に寄り添った支援となるよう、会社全体での研修等も引き続きおこなってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流機会の不足	児童の平日の来所時間は下校後からとなり、平均滞在時間は1.5時間～2時間ほどです。その限られた時間の中で、療育支援にプラスして地域の方との交流の時間を設定することは現状難しいです。	まずは事業所がどんな場所なのかを多くの方に知っていただく必要があると考えます。事業所をより身近に感じてもらえるようSNS等で事業所情報を公開いたします。 また、地域の公園や公共施設を利用する際に、地域の方との自然なかかわりの機会を大切にしていきます。
2	保護者同士の交流機会の不足	近年は両親ともにフルタイム勤務の方も多く見受けられ、平日のその時間を設けることができません。 保護者さまのニーズとしても、療育支援の時間をできる限り取ってほしいと希望される方が多いため、保護者会の開催は優先度が低くなっている現状です。	保護者の就労状況を踏まえ、平日の保護者会の開催にこだわらず、土曜日や長期休暇時など参加しやすい時期での開催を検討します。 また、全員参加ではなく、希望者を対象とした小規模な交流会等も検討してまいります。
3	防災・安全対策に関する周知の不足	利用開始時の説明以降、定期的に防災対策を伝える機会が少なく、保護者が内容を再確認する機会が不足していたと考えます。避難訓練や安全対策の実施状況を保護者へ積極的に発信する仕組みが明確ではありませんでした。	避難訓練の実施状況や安全対策について、SNSや連絡帳で保護者様へ定期的に発信してまいります。